

花水樹賞

- ・ボランティアを基本とした花や緑の育成活動により地域社会に優れた実績を残した個人及び団体
- ・積極的なボランティア活動を年間30日以上かつ2年以上継続し、他の模範となるもの

株式会社 小松村田製作所 (光町)

【講評】(株)小松村田製作所は、「緑豊かな市街地の工場」をめざし、構内緑地の整備に様々な取り組みを行っています。

特に2009年より4品種4本から始まった構内のバラ園は、フェンス越しからの見学者が増えたため2015年に一般開放を開始しました。毎年、品種・本数を増やし、2018年からは「こまつオープンガーデン」にも参加し、現在では46品種・59本となり、大きく育った色とりどりのバラを目当てに多くの見学者が訪れています。

また、近隣のこども園や幼稚園での、あさがおのグリーンカーテン制作による花育活動をはじめ、会社周辺での地域清掃や街路の除草などのボランティアを積極的に取り組んでおり、地域に根差した花と緑の活動を行っています。



殿堂入り花壇

過去のコンクールにおいて、大賞を2度受賞した花壇

エイキK Kツバキの会 (木場町)



※殿堂入り花壇はコンクールに参加していません

下粟津町花の会



つーらーらーこまつ

花のコンクール大賞

2022夏花のコンクール大賞



審査員長講評

審査員長 和田博幸氏 公益財団法人 日本花の会 特任研究員 樹木医

8月4日に北陸地方を襲った豪雨で、被災された方や関係された皆様へ、お見舞い申し上げます。10回目となりましたフローラルこまつ花のコンクール大賞が開催され、受賞者が決定しました。受賞された皆様おめでとうございます。審査員一同、心より祝福申し上げます。

審査は真夏の暑い日でしたが、皆さんが丹精込めて育てている花壇を、汗を拭き拭き楽しく審査して回り、それぞれの場所で花が迎えてくれ、審査員は暑さを忘れ感激しました。そして、この10年間で市民の皆さんの花に寄せる想いや関心は高まり、栽培技術やデザイン力、見せ方がアップし、市内の多くの場所で花のまちづくりが根を下ろしていることを実感しています。

今回の豪雨災害で再認識したことがあります。気候が今までと違って来たことが現実に目に見えて起こったり、肌で感じられたりと、誰もがその変化を実体験されていることなのでしょう。冬は暖冬となり、春の芽生えや花

の時期は短く、急に夏になったかと思えば暑い日が長く続き、紅葉の時期は12月にずれ込むなど、簡単に書きましたが身の回りではもっとたくさんの環境変化が起こっているはず。今以上に地域の環境と向き合い、より真剣に考えなければなりません。この様な時にも花は人との触れ合いの中で咲いて、私たちを心ませ、安心安全な生活を明示してくれます。このことに早くから気づいた小松市は、2000年よりフラワータウン推進事業を始め、花と市民との密接な関係を築きながら、環境保全活動や花のまちづくりを市民共創で醸成させてきました。

今、世界各国でSDGsが取り組まれています。小松市は20年前から今のSDGsに通じる活動を市民が主役となって取り組み、「フローラルこまつ」に昇華させています。身近な場所での花壇づくりは、地域の自然環境を思いやり大切にする活動で、人と人、そして暮らし、教育、福祉、地域、文化、産業などを繋ぐものです。これを実践している皆さんのことを尊敬します。そしてこれからもそれらのことを花壇づくりの片隅におきながら、楽しく花のまちづくりを続けて欲しいと願っています。



大賞

有料老人ホーム NOA (八幡)

講評 花園に一步足を踏み入れた途端、「ここはどこ?花の公園それともテーマパーク?」と錯覚してしまうほど、花と緑が調和し空間の取り方が素晴らしい庭です。これに加えホームの取り組みも優れていて、庭は来訪者に開放され、入居者等から時折り持ち込まれる花苗は季節の彩りに演出されます。環境への配慮も十分ですが、何よりも花のホスピタリティが施設運営やスタッフに現れ、園芸福祉の見本となる素晴らしい活動でとても高く評価できます。

団体の部 (一般)



金賞

フローラルつどい (符津町)

講評 花壇がなければ殺風景になりがちな場所ですが、活動を始めたことで街かどに彩りが添えられて景色が一変し、見事なコミュニティ花壇となっています。メンバーが話し合いを重ねて役割を分担して活動し、デザインと管理面では宿根草を多用したり、花壇づくりではリサイクルを心掛けたりなど、取り組み面でも高い評価が得られました。



銀賞

西軽海町一丁目町内会

講評 コンクールの常連入賞団体で、毎年同じ種類の花と鉢の並べ方だと思いましたが、過去の花壇と見比べてみると花の種類が入れ替わっていたり、年によって、また季節によってデザインも変えたりしています。このような柔軟的な対応は、高い栽培知識と技術、グループ内の意思疎通がある証です。長年活動を積み重ねた模範といえます。



銀賞

糸町町内会

講評 例年にも増して花にボリュームがありました。毎年花壇づくりをしているにもかかわらず、このボリュームが出せるのは、土づくりの成功と植えてから数週間のデリケートな管理がうまくできているからです。町内会の50人が力を合わせることは並大抵ではありませんが、町を想う気持ちが結集し見事な花壇づくりにつながっています。



銅賞

沖町町内会

講評 この花壇の審査を毎年楽しみにしています。その理由は花壇のテーマと主張、デザインにメッセージ性があるからです。はっきりしたテーマは、メンバーに目標がきちんと伝わり、見る人の関心も高めてくれます。今年は平和への願いが青と黄色の花に込められていました。その量をもう少し増やした方が、メッセージ性が高くなって良かったようです。



奨励賞

金平町いきいきクラブ

南浅井町町内会

木場さわやかクラブ

フローラル沖町

島田町寿会

上荒屋町町内会

フローラル西軽海NO2

入選

符津町町内会、花みずき会(白旗町)、JA今江女性部、下八里町町内会、鶴川町町内会

努力賞

島田町町内会、国府台みんなの森愛好会、北陸電力株式会社、島町町内会、カーネーション(長谷町)、親和会(四丁町)、チャレンジ花壇教室Aチーム、チャレンジ花壇教室Bチーム、埴和会(埴田町)、鶴川福寿会

団体の部 (児童・生徒)

銀賞 向本折小学校



講評 児童だけでなくPTAと職員が一緒になった全校的な取り組みを評価しました。花に関わる人のそれぞれの想いが花に伝わり、以前よりも量が増え見栄えも良くなっています。心を合わせて咲かせた花がフラワーアレンジづくりに使われ、校内に飾ることでみんなを幸せにしています。この経験は将来の花の活動にきっと活かされるでしょう。

銀賞 那谷小学校



講評 全児童31人が力を合わせて花壇づくりに取り組んでいます。それを保護者や職員が児童の自主性を尊重しながら、手助けしている姿勢が花壇に表れています。上の学年の児童が下の学年の児童へ植え方を教えている姿は微笑ましく、花壇活動を通じて花と人を思いやる心が育まれ、花育が実践されている好事例といえます。



銅賞

中海小学校

講評 校舎の正面玄関前のプランターは、たった6人の委員会で育てていますが、色鮮やかで見事に咲いており、通学する友達や先生方、学校を訪れる人たちの目を惹きつけていることでしょう。それぞれのプランターの花はボリュームもあって、毎日の管理の丁寧さが窺え、花に優しく接することの大切さを教えてくれています。



奨励賞

芦城児童クラブ

第一小学校



稚松小学校

努力賞

串小学校、放課後等デイサービスZikka(八幡)

団体の部 (幼児)

銀賞 あおば保育園



講評 保育園の取り組みらしく花壇の花の色合いがはっきりしていて、園児の元気良さが表れています。登園するたびに花に挨拶する園児の姿が目につきます。花を育てた体験や感動は、大人になっても忘れることなく、3・40年後は小松市の花のまちづくりを担う人材となってくれることでしょう。将来性のある取り組みも評価しました。

銀賞 中海こども園



講評 園内の空いているところを利用した花壇づくりは、園児と保護者が一緒にできるようになっていて、親子が花について話している光景が見られるなど、活動の成果が表れています。また、通りすがりの人が花壇を見られる工夫もされ、花のあるこども園が5年間の活動を通して地域にも定着しています。これからの発展がとても楽しみです。

奨励賞 ちこう(ちこう棟)



入選

あたか認定こども園

個人の部

金賞 米工房 ますもと (上本折町)



講評 お店と歩道のわずかなスペースを利用して、花鉢を見栄え良くひな壇状に並べ、道行く人が楽しめるようにしてあります。通学路と保育園児のお散歩コースにもなっていて、子どもたちにも好評です。栽培レベルが高く、花飾りでもちに貢献しようとする姿勢は、フローラルこまつの根幹をなす考えでもあり、市街地での取り組みとして高く評価されます。

奨励賞 中田 順子様(中海町)



村田 のり子様(白旗町)



谷川 浩様(国府台)



努力賞

高橋 勝巳様(今江町)